

# ~Mirary soa~

マダガスカル通信  
第3号  
2022年9月26日

## ◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)  
隊次：2021年度4次隊 (2022/4~2024/4)  
職種：看護師  
派遣国：マダガスカル  
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



乾期も終盤を迎えたマダガスカルです。任地に赴任した頃(6月初旬)は乾期の初めで、今日まで雨が降ったのを見たのはたったの**2回**です(それも通り雨でした)！農家さんにとっては厳しい時期ですが、私は毎日自転車移動ができて活動はしやすかったです。

ちなみにマダガスカルは**南半球**のため、気候は日本と逆で少し前までとても寒く、夜は**0度**近くまで冷え込むため湯たんぽを使いながら生活していました。マダガスカルにいと、物が何でもそろそろ日本の便利さに気付かされ、日々ありがたみを感じます。



乾期は晴天の日が続きます！

## ◎田んぼで〇〇作り！？

日本では稲刈り後の田んぼは、次の田植えの時期まで田んぼは休憩期間かと思いますが、ここマダガスカルでは稲刈りが終わるとある光景を至るところで見かけます。一体それは何でしょう？

・・・それは、**レンガ作り**です！！**田んぼの赤土と水**を混ぜて粘土状にし、型抜きをして数日間天日干しします。そして乾燥したレンガを1日かけてじわじわと焼きます。乾期の期間を利用してレンガ作りをしている姿は、真面目で働き者なマダガスカル人らしさを垣間見られます。

赤土の種類によっても粘度が違い、質のいい赤土で家を作ると**30年以上も保つ**そうです！

マダガスカルでは多くの家がレンガ造りになっており、聞くと夏は涼しく冬は暖かいため暮らしやすいようです。



型抜き天日干し中・・・



乾いたレンガを積んで(↑)焼く準備中

## ◎最近嬉しかったことと気づき

先日、保健ボランティアさんの集まる会議で**バナナの蒸しパン**を試食してもらいました。その後、レシピに興味を持ってくれたあるボランティアさんのお家で、**一緒に蒸しパン作り**をしました。彼女は蒸しパンが思っていたよりも簡単に作れることに驚いており、子どもたちにも好評でした。

後日、保健ボランティアさんの会議の後に蒸しパンのデモをさせてもらえることになりました。初めは私がデモをするつもりでいたところ、お家で一緒に作った彼女が、率先して他のボランティアさんにデモをしてくれ、その姿が逞しく嬉しかったと同時に、“**いつも私がやらなくてもいいんだ**”と気付くことができました。こうして地域のお母さん達にも伝わっていくんだと思うと、ボランティアさんの影響力は大きいと感じた経験でした。



保健ボランティアさん家で蒸しパン作り



家で作ったボランティアさんがデモしてくれました

## ◎マダガスカル伝統儀式～“ファマディアナ”特集～

マダガスカルには“ファマディアナ”と言われる有名な伝統儀式があります。これは日本のお盆のような風習で、**お墓から遺体(ミイラ)を掘り起こす儀式**です。7月～9月の乾期の時期に行われる、中央高地の文化です。

マダガスカルでは死後も魂があり、先祖が見守ってくれていると信じられており、**先祖を敬い魂を弔う**ために、布に包まれたミイラになった遺体を新しい白い布で巻き直します。通常、奇数年(3～7年)に1回、1～3日間かけて行われ、その日は遠方からも**家族や親戚が集まり絆を再確認する日**でもあります。



一般サイズのお墓です



ごぎに包んで  
お墓から遺体を出します



大きなお鍋で歓迎食を作ります



“Vary be menaka”  
豚肉とグリーンピース



楽器隊の方々  
金管、木管、打楽器があります

## How to ファマディアナ？！

ファマディアナは数年に1度の家族・親族が集う貴重な場であり、前日から親族一同集まってごはんを囲って談笑したり、前夜祭で朝まで踊ってお酒を飲み交わしたりする場合があります(深夜も爆音で音楽が鳴り響き、近所の人には眠れないそうです笑)。

カトリック教徒では神父さん呼び、聖書を読む儀式を行う家庭もあります。日本でいう**お盆の法要**のようなものにあたります。

## ～ファマディアナが始まるまで～

ファマディアナの前には、家族や来てくれた近所の人たちは**“Vary be menaka(たくさんのお米と油)”**という脂身のある豚肉多めの歓迎食を食べます。家族は朝から大量のお米と豚肉を調理し、続々と集まってくる人たちに**“Vary be menaka”**を振る舞います。その日家族は朝からバタバタと大忙しです！

ファマディアナのために、**飼っている豚(その時は2頭)を絞めて**提供されることもしばしばあるようで、豚肉が高級なマダガスカルにとって、ファマディアナがいかに大切な儀式であるかが分かります。1度のファマディアナで**農家の年収ほどの費用(約36,000円)**がかかるため、来てくれた人たちから**香典**をもらうようです。

## ～ファマディアナが始まると、～

“Vary be menaka”を食べた後、一同でお墓の方に移動します。ここで驚いたことに、しんみりする雰囲気は全くなく、**楽器隊の音楽に合わせて歌ったり踊ったりしながら行進**して移動します！これはもうすぐ先祖や家族に会えることが嬉しいからだそうです。

そしていよいよ遺体がお墓から運び出されて面会すると、今まで楽しそうに踊っていた人が、遺体を抱きかかえて涙を流す姿も見られました。

その後**新しい白い布**を上から巻き直し(古い遺体ほど雪だるま状態に大きく重くなっていきます!)、白い布に名前を書いて、お墓の周りを1周した後、再びお墓に戻します。

亡くなった後も先祖を大切に思い敬い、先祖のために盛大な儀式を行う様子は、**家族の繋がり**を大切にするマダガスカル人らしい伝統儀式だなと感じました。



お墓まで楽器の音楽と共に  
行進して行きます



遺体を間違えないよう  
名前を書きます